

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 豊かな実践に高める —

6



平成29年度 第70回山口県学校美術展 推奨作品
「私のピンクの長靴、とっても可愛いでしょ」
社会福祉法人百華児童苑 大内光輪保育園 年少（受賞時）高橋 歩愛

■シリーズ「人・任・仁 ①」

■提言・PTA活動

山口県PTA連合会 会長 吉武 克治
(周南市立富田中学校PTA会長)

■インタビュー・この人

山口県教育委員会 教育長 藤本 孝治

■新たな職務に思う

防府市立中関小学校 校長 藤中 俊臣
岩国市立本郷小・中学校 校長 片山 京子
長門市立深川小学校 教頭 福田 哲郎
周南市立須々万中学校 教頭 岡田 早苗

■わたしの潤い

由宇支部 塚田 拓司
周南徳山支部 江田 光信

■作品募集

第10回「わたしの志」作文募集
第31回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykoyoikuk.or.jp> E-mail ykoyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：井上 洋／編集長：山本晃久

あなたの
アクションは...

山口県教育会がすすめる
「元氣やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち



未来へ繋ぐPTA活動の展開を！



山口県PTA連合会
会長 吉 武 克 治
(周南市立富田中学校PTA会長)

私の父は当時としては珍しく、子育てに熱心でした。我が家は共働き家庭だったため、父は仕事が終わるとすぐ家に帰り、晩御飯を作ってくれたり、私が寂しそうにしているときは「映画でも見に行こうか」と気分転換に誘ってくれたりする優しい父でした。私が社会人になっても、夜遅くまで私の帰りを待ち、「話をしようか」と言っ、仕事の悩みを聞いてくれていたのを思い出します。とても愛情を注がれて育ちました。「息子二人とも立派に育ってくれた」というのが父の口癖でした。「今度は孫の面倒をみたいのう」と言っていた父は、私に子どもができた時には残念ながらすでに他界していましたが、そんな父親の背中を見て、私もしっかりと子育てをしようという心に誓いました。

子どもが中学生になった時、風車で有名な永源山公園の麓にある、周南市立富田中学校でPTA役員としてお世話になることになり、皆さんと交流を持ちながらPTA活動の大切さを学び、周南市・山口県両PTA連合会ではより多くの方と交流をし、勉強をさせていただきました。そんな私の数少ない経験からPTAについて、今思うことを書き留めました。皆様のご参考になれば幸いです。

家庭教育の役割

PTAの役員を引き受け、教育現場に接することが多くなり、最初に感じたことは、私の予想をはるかに超えて先生方が頑張っておられるということでした。

いじめなど多くのトラブルから子どもたちを守る対策が求められており、これ以上先生方に負担をかけることはできないというのが素直な感想でした。保護者ができることは何だろうと考えたときに、学校では子どもたちを守ってもらっている代わりに、家庭では子供たちに失敗する権利を与えてやることだと感じました。社会に出てみても必要なのは、失敗をしないことよりも、失敗を恐れずチャレンジし、万が一に失敗をしたときにどう考え、どう行動すべきかだと思います。そのために家庭教育では保護者の責任において、どんな失敗を経験させてあげることが必要になるのだと思います。もちろん経験させるためには、保護者とその本質やリスクを理解することが必要です。またPTA活動が、子どもたちのチャレンジできる場であっても面白いのではないのでしょうか。

PTAとは

PTAの目的は学校支援と成人教育の二つに分けられます。

学校支援については、教科書の無償化や給食制度など、長きにわたるPTAの歴史において成熟を迎え、現在ではどちらかというと成人教育の場としての存在意義が大きくなっています。前山口県PTA連合会長からは、PTAについて「保護者が学ぶ背中を子どもに見せ、子どもとともに成長していく場であり、そのためには会員同士、交流することが大切」と教えてい

ただきました。私自身もPTAの出会いと交流から多くのことを勉強させていただきました。人との出会いは素晴らしいものです。人は人との関わりの中で生き、大人はもちろんのこと、子どもたちもそこで明るくたくましく育っていきます。

今日では、PTA活動は、学びの場としてはもちろんのこと、多くの人が出会い交流する場を提供するという重要な役割を与えられているのです。他方、PTAは地域にとつても重要な役割を担っています。それはPTAが地域の人材育成としての入り口になっているということなのです。コミュニティスクールをはじめ、地域全体でこれからの人材の育成に取り組むことが、その地域の将来を左右するのだと思うのです。

PTAが目指すもの

PTAに対して、負担になる、やりたくない、忙しいといった言葉を多く聞きます。不要論まで出てきていますが、PTA活動を経験された方のほとんどが、「やってみたら楽しかった」と言われて卒業されていきます。私はこれこそ、役員皆さんの最終的に目指すべき目標だと思っています。楽しかったという思いは未来に続いていきます。保護者が子どもたちのために立ち止まり、何ができるのかということを考える機会を無くしてはいけません。

今年、山口県PTA連合会は創立七十周年を迎えます。私たちの役割は過去の先輩方がやってこられたように、与えられたその時代を支え、未来へと繋いでいくことでもあるのです。

期間限定のPTA活動の中で

PTA活動は、子どもが学校にいるときだけにしかできない期間限定のものです。子どもとかわる限られた時間の中で、子どもは成長していきます。私も残り少ない期間限定の時間を大切に取り組んでいきたいと思っています。

平成二十九年十二月二十三日に山口市教育委員会教育長に就任されて、およそ六か月が過ぎようとしています。その間、年度の切り替わりもあり、多忙な毎日をご過ごしておられます。教育長さんには、いろいろとお聞きしました。



山口市教育委員会
教育長 藤本 孝治

Q：小学校・中学校のころは、どのようなお子さんだったか、思い出も含めてお聞かせください。

自分で言うのもおかしいのですが、小学校のころはどちらかというと真面目な性格で、六年生の時には児童会長も務めました。いろいろなコンクールにも積極的に出品していました。表彰されることで自己肯定感が高まったように思います。

本物を大事にしたいという両親の思いからでしょうか、休日にはよく美術館や博物館に連れて行ってもらいました。また、母はいろいろな本を購入して私に読ませてくれました。読んだあとには、あらずじや感想、心に残った一場面を絵に描く習慣が付き、このころから読書の楽しさを体感できるようになりました。母親とは読書ノートを交換日記のようにやりとりし、親子のコミュニケーションの源となっていました。改めて私のいろいろな可能性を引き出そうとしてくれた両親に感謝しています。私が国語教師をめざすきっかけもなつたのではないかと思っています。

中学校では、剣道部のキャプテンをしたり、意見発表大会にも出場したりして、積極性がいつそう増したように思います。

Q：趣味に興じる時間もないと拝察していますが、休日にはどのように過ごしておられるのですか。

教育長を拝命してからは、休日も行事等でなかなか休みが取れないのが現実ですが、時間が許されれば、教育書やビジネス本などを読み、スキルアップを図つ

ています。

今は実践できていませんが、趣味の一つにランニングがあります。四十代の時にフルマラソンに出場しました。タイムは四時間十分でしたが、ぜひ練習して、もう一度挑戦し四時間を切りたいと思っています。

他にも書道が好きで、よく色紙などを頼まれて作品にしています。今後、茶道も習い、日本の文化を肌で感じてみたいと思っています。

Q：さまざまな経験をお持ちだと伺っていますが、これまでの教育研究や研修についてお聞かせください。

兵庫教育大学で三年間教授として研究した折に、「教育行政職トップリーダーの資質能力の向上」に関する研究を行いました。全国の教育長や首長を対象としたアンケート調査やインタビュー、そしてフィンランドやイギリスなどの先進国の視察を通してトップリーダーの行動タイプや資質能力の分析を行い、それに基づいた研修プログラムを作成し、全国の市区町村の教育長さん方を対象に講座を実施しました。

リーダーの行動には、マネジメント力を必要とする「対課題行動」とリーダーシップが必要な「対人行動」の二つがあり、この二つの行動を軸に「変革・統率」「変革・調整」「維持・統率」「維持・調整」の四つのタイプに分類した結果、「維持型」が「変革型」よりも多いことがわかりました。「変革期」といわれている現在「変革」の力を養うための応用力、とりわけ「人を動かす力」を高めることが求められているのだと思います。

山口県でもいくつかの市で講義・演習を行いました。「学校の自立性・自主性」が求められている中で、多くの校長は、例えば、学校教育目標を設定する際に、校長の思いだけで設定することが多く、それが形骸化に結びつくのではないかと感じています。もつとアセスメントを大事にし、情報収集と分析を行った上



で目標設定を行うことが必要だと感じています。

Q：山口市の教育行政について感じておられることをお話しください。

まずは、教育委員会と学校、首長部局との縦と横の連携を図られている点がすばらしいと思います。そして首長の教育への理解も深く、エアコンの整備をはじめ校舎の増改築や長寿命化、ICTを活用した教育環境づくりなど、教育予算にもかなり配慮いただいている点もすばらしいと思っています。また、大学との連携も含め「協働によるまちづくり」と「コミュニティ・スクール」により地域とともにある学校づくりが進んでいることも自慢できる点です。

学校や地域の「よさ」や「課題」をいっそう分析し、学校、家庭、地域の良好な関係の下で「自分たちが学校のステークホルダーである。この学校をよくしていく」という当事者意識をもつような仕組みを構築していくかなければならないと思っています。

Q：教育長としてのこれからの展望をお聞かせください。

これからは、「未来予測困難」な時代だと言われています。子どもたちには、変化に対応し未来を切り拓いていく資質能力を身につけさせなければなりません。そのためには、「自己肯定感」と「人を思いやる心」私はこれを「仁愛」と言っていますが、それらをベースとした「本物の学力」を身につけることが重要であり、まずは「授業改革」が必要だと思います。

そして子どもの成長を支えるバックボーンが何よりも大切だと考えています。湯田中学校長時代には「コミュニティ・スクール」を核とした「地域とともにある学校づくり」を積極的に推進し、地域の様々な方々との連携を密にした結果、子どもの自己肯定感、自己有用感、地域への愛着、思いやりの醸成、そして学力の向上に成果をあげてきました。

今後「地域全体が教室」「先生は学校と地域の大人」をコンセプトとして、地域のヒト、モノ、コトを大事にし、子どもたちの成長を多方面からきめ細かに支援していくことができる教育行政の推進と実現に努めていきたいと思っています。

(以上要約) インタビュアー…山本 晃久

シリーズ「人・任・任①」

「ふるさと中関」ひとともに



防府市立中関小学校
校長 藤中 俊臣

さくらさくら

さくさくらちるさくら

これは、着任式の時、防府市教育委員会 杉山教育長の御挨拶の中で紹介された防府市出身の自由律俳句の俳人、種田山頭火の句です。

まさに桜の花が咲き誇る中、「学問のまち『防府』」に着任したことを実感するとともに、期待感と使命感を強く感じた瞬間でした。

本校は、防府平野の南部に位置し、開校百四十五年目を迎える伝統ある学校です。かつては港や製塩で栄え、近年では、自衛隊の駐屯、工業団地の造成、新興住宅の建設に伴い、古の伝統と近代都市化が融合した新しい気風が醸成されつつあります。

全校七百名の子どもたちは、毎朝、緑色のユニフォームを身にまとった「中関みまわり隊」の皆様は温かく見守られ、「元氣よく登校してきます。この「中関みまわり隊」は、見守り活動の発祥と言われ、毎日交差点での交通指導や挨拶、登下校時の付き添いなど子どもたちの安心安全に御尽力いただいています。

このように、「中関の子どもは中関で育てる」という地域の皆様の思いは熱く、コミュニティ・スクールである本校にとっては大きな強みとなっています。



ます。

私は新任校長として、まず自らが地域に飛び込み、校区の「ひと・もの・こと」とつながり、校区の強みを生かした「地域とともにある学校」を運営していきたいと考えています。

そして、地域の皆様の思いをしつかり受け止め、「ふるさと中関」の地域活性化につながる学校づくりをめざしてまいります。

とある休日、山登りが好きな私は、校区を見渡せる田島山に登りました。今のこの決意を忘れることなく、五感に刻み込むために。

地域とともに「本郷学園構想」を目指して



岩国市立本郷小・中学校
校長 片山 京子

春四月、四方を羅漢山を始めとする山々に抱かれた本郷の地に着任した。山代地域の政治・経済・文化の中心として栄え、最後の代官杉民治（吉田松陰の兄）が開いた水路を始め、多くの史跡が町の至るところに現存する歴史と伝統のある町である。

町の小高い丘から一望できる隣接する二つの校舎と山村留学センター、そして、風に舞う桜の花びら。まるで一つの絵画のように私の心に染み入ってきた。

両校は、これまで二年間、隣接型小中一貫教育モデル校として地域に根ざした取組を推進してきた経緯をもつ。今年度、初めて本郷小学校・本郷中学校の二つの学校を兼務する校長としてのスタート。これは、「本郷学園構想」への新たな進化を目指すものである。

「校長先生、何でも相談してくださいね」と、出会う地域の方々からの温かい声掛け。山村留学センターに学ぶ児童生徒も含め、本郷の地での出会い、そして共に学ぶ、その意義を地域の方々から、そして、子どもたちの姿に学ぶ毎日である。朝夕、地域の方々に見守られながら登下校する児童生徒。交わされるあいさつ、笑顔のなかに、支え合う絆を感じる。将に、「子どもは地域の宝」なのである。



「学校が変わる」。変わることにならなチャンスを見出し出したいと強く思う。社会での変化に立ち向かう子どもたちの見本として、この挑戦が社会に巣立つ「児童生徒」だけでなく、「教職員」そして「地域の方々」、「社会」の幸せにつながると信じている。そして、「本郷」を「誇り」に社会で生き抜く児童生徒の育成のために、保護者、地域の方々も含めた「チーム本郷」をつないでいくことが使命だと感じている。

笑・自・気あいさつ



長門市立深川小学校
教頭 福田 哲郎

平成三十年三月二十七日、業務の引き継ぎのため、学校を訪れた。平成二十三年度改築の校舎は、新しくモダンなデザインをしており、大変魅力的で、ここで働くことへの期待が高まった。しかし、具体的な仕事の内容を聞くと、不安な気持ちで私の心を支配していくのを感じていた。

四月九日の始業式、入学式までの一週間は新学期準備で忙しくほとんど記憶がない。職員会議では教務、生徒指導等、次々に提案がなされ、先生方の責任感の強さや教育に対する熱意を感じ、組織としてのたくましさを感じる事ができた。一方で、本校の諸活動の進め方について理解が追いつかない自分や、教頭としての日々の業務が思うように進められない自分に、いら立ちや情けなさを感じていた。

学校が始まって三日目の朝、廊下で出会った一年生に「おはようございます」と声をかけると、「頑張ってください」という言葉が返ってきた。本校では「笑・自・気あいさつ」をチャレンジ目標の一つに掲げており、私も笑顔で自らすすんで気持ちのよい挨拶を心がけてきたつもりだったが、一年生に私の心の奥を見透かされたようで、ドキッとした。



職員会議で、校長から、「報・連・相」の話があったが、学校が始まる毎、先生方が子どもや保護者に関する様々なことを報告、連絡、相談して下さる。私は教頭として迅速な対応を：と意気込むが、迷いが生ずる。その都度、校長、教務主任、先生方、事務職員、PTA会長等、色々な人に相談しているが、自らも判断力を高め、余裕をもって対応できるようになり、とびつきの笑顔で対応できるようにになりたい。

すべては子どもたちのために



周南市立須々万中学校
教頭 岡田 早苗

校門をくぐり車を駐車場に停めて校舎に入ろうとした時、どこからともなく「こんにちは」「こんにちは」と何人もの声が聞こえてきた。周囲を見回しても誰も見当たらない。遠くの方に生徒たちがいて、立ち止まってこちらにお辞儀をしているのに気づいた。あんなに遠くから礼儀正しく挨拶をしてくれる生徒たちの姿に気持ちが変わるような感覚を覚えた。

本校は、周南市の中山間地域に位置しており、生徒数百十六名の規模校である。挨拶は「語先後礼」を意識し、立ち止まって挨拶をするよう指導している。始業式・終業式の司会進行も全て生徒たちの手で、生徒の自治活動を通して生徒の自主性を育てている。また、校長のリーダーシップと一人ひとりを大切にし、任せることで教職員がやる気と自信をもって活動しており、これらが「チーム須々万」を動かす原動力となっている。

PTA活動に積極的に参加して下さる保護者や地域の方々の協力のおかげで学校が支えられていることを改めて感じている今日この頃である。

それもこれも「すべては子どもたちのために」が根本にあるからではないだろうか。それは私の教育信条と共通するところでもあり、迷ったときは



常に「それは子どもたちのためなのか？」を第一に判断してきた。教頭として「子どもたちのために何ができるのか？」今はまだ模索中であるが、まずは生徒・教職員・保護者・地域の方々一人ひとりを大切に、それぞれの想いを繋ぎ結んでいくことから始めてみようと思っている。「教頭先生！」と呼ばれることに、自信をもって「ハイ！」と答えられる自分をめざして。

「由宇亭拓の輔」びいざいます！



由宇支部

塚田 拓司

原稿依頼を受けた瞬間、「魚釣り？」おつとつこい「落語！」。私の落語は釣りと比べると見習いです。一方釣りは、長女が小学校低学年まで私を漁師だと思っていたほどです。「本当に落語ですか」と聞き直してみました。

今から四年前、敬老会に貢献していただけないかという地域の声にこたえ、落語の初舞台を踏みました。その三年前、立川志の輔師匠の落語にふれた時に私の身体に電流が走ったのです。その気持ちを持ち続けていた私に地域の声が重なりました。地域の人に喜んでもらえるのなら清水の舞台から飛び降りてみるかと。

手前味噌で恐縮ですが、昨年は学校や地域行事等で三十回以上の依頼がありました。始めた頃は、足の痺れとの闘いでした。退場しようとした瞬間に歩くことができず、言うように舞台袖に下がる姿が一番笑いを誘いました。今でも盛り上がらなかつたら、這って退場するようにしています。

現在、新作や古典に挑戦していますが、やればやるほど、プロの噺家さんの凄さを感じます。ですから、講演が間近に迫りますと、いい加減なことはできないという思いから、一人で壁に向かって毎晩猛練習に打ち込みま

す。このような中、学校に勤めていた時代に子どもたちが織りなす愉快な話や先生方の人間味あふれる笑話を「まくら」で使い、その話に会場が盛り上がった時の充実感はまだありません。本来落語は人を喜ばせること、相手を思いやることが原点です。「高座返し」という前座が座布団をひっくり返す動作は、お客さんの方に埃まじりの風がいかないように返します。また、その座布団はお客さん側にだけ縫い目の無い方に向けて「切れ目ない」お付き合いを表現しています。こんな落語の謙虚さが私は大好きです。今後も、お声がかかる限り頑張ろうと思います。それでは、おあとがよろしいように。



小学生ラグビーとの出会い



周南徳山支部

江田 光信

退職後も、趣味として写真を撮っています。現役時代から、研究物などに載せる「記録」としての写真は、数多く撮ってきました。しかし、見る人の魂を揺さぶる「作品」は奥が深く、これという一枚はなかなか撮れません。主にスナップ写真を撮っています。近頃は個人情報保護などで、勝手に撮ることは難しいです。

六年前に、徳山大学で開催されたラグビースクール周南大会で、小学生のラグビーと出会いました。ラグビーとはこれまで無縁でしたが、自分を信じ仲間を信じ、皆でタックルし、ボールをつないでトライを決める姿に、目がき付けられました。生半可なタックルをするとき怪我をします。タックルをするときの表情や相手を躲したときの得意満面の笑顔がファインダー越しに見え隠れします。全力でプレーに取り組む小学生ラグーマンに心を惹かれました。

デジタルカメラで、一回の交流試合に四千枚近く写真を撮ります。その中の数点を作品候補として残り、後はすべて削除してしまいました。ある時、保護者に削除する写真を見せたところ、欲しいと言われました。それを機に、スクールの保護者とのふれ合いが始まりました。県内はもとより、子ども

たちの活躍を撮るため、北九州や広島などにも出掛けます。良いポジションを求めて広いグラウンドを重い機材持って歩き回ります。万歩計の数値も増え、健康でないと出来ない趣味だと思えました。子どもたちのお陰で、二〇三年に二科会写真部に初入選して以来五年連続、ラグビーの写真で入選することが出来ました。

私と交流があるスクールは今年で二十年を迎え、記念行事が予定されています。これまで撮りためた写真の提供を求められ、ますます忙しい毎日となりそうです。



岩国市ミクロ生物館



JR山陽本線由宇駅前から国道188号を南に約1.5km向かったところで美しく整備された海岸が目に入ります。岩国市が防災・地域振興を目的として整備した「潮風公園みなとオアシスゆう」です。海岸に目を向けると、全長450mの美しい「潮風ビーチ」が広がり、更衣室や温水シャワーを備えた「海浜棟」や、海の風景を満喫しながら散策できる「潮風ロード」、そして施設の中心には食事や物産品の購入が可能な「交流館」があります。

この交流館に入るとすぐ左手が「岩国市ミクロ生物館」です。「潮風公園」が整備された折、この施設から、「微生物とのかかわりを通じて子どもたちの『命を大切に作る心』と『探究心』を育みたい」「生態系を支える微生物の変動から環境をみつめ情報発信したい」と、地元医師の中島篤巳氏、旧由宇町、山口大学等の関係者の強い思いと建設への努力により平成16年7月にオープンしました。当時は世界初、今でも我が国唯一のミクロ生物館です。



館内には所狭しと顕微鏡が並べられ、ミドリムシやゾウリムシを初め多様な微生物を観察することができます。また、パネルや映像から微生物と私たちの生活との関わりなども学ぶことができます。加えて、本格的な研究が行える実験室も備え、ビーチを訪れた大人や子ども、市内の小中学校や県外の高等学校のクラブ活動等多くの人々が活用するとともに、施設自らも学校等に出向き、年間60～100回出前講座を行っているそうです。

施設や教材等にさらに改良を加え「微生物をもっと身近な存在にしたい」とは、末友靖隆館長さんのことばでした。

岩国市由宇町8500-6
潮風公園みなとオアシスゆう交流館内
Tel. 0827-62-0160
開館時間：9:30～16:30 入場無料（実験室は有料）
休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）年末年始
URL：<http://micro.shiokaze-kouen.net/>

伊藤公資料館

専用駐車場から、道路を渡ると、正面で巨大な光市の観光案内板が迎えてくれます。その脇の緩やかなスロープを登ると、突然目の前に、まるで神戸の異人館を思わせる風格ある白と黒の建物が目に飛び込んできます。伊藤公記念公園の中に位置する「旧伊藤博文邸（県指定有形文化財）」です。これと並んで奥側に建つ茶色と白の建物が「伊藤公資料館」です。幸いにも天候に恵まれ、東荷の静かな地で陽光に照らされて建つ姿は誠に格調高く、見学する者の興味がそそられました。



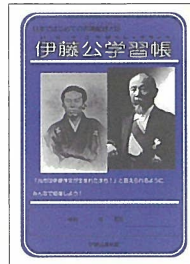
資料館は、初代内閣総理大臣伊藤博文公の遺品等を展示して伊藤公の業績を紹介するとともに、幕末から明治末までの

日本の動きを学習する場として開設されました。

展示室では、柔らかな局面のガラスで仕切られたスペースに、伊藤公が神奈川県大磯の別荘「滄浪閣」で使用していた家具や大礼服等の衣類、硯や筆、直筆の書や文が展示され、伊藤公の人柄や業績を偲ぶことができます。また、シアターホールで放映される伊藤公が韓国李皇太子と海岸を散策する記録映像は圧巻です。

資料館では、市内小学校3年生を主対象とした「伊藤公学習帳」を作成、配付し、光市ならではの地域学習にも貢献しているとのことでした。

ここ4年間は毎年9月～11月に「伊藤ドラマ」と題して企画展を展開してきましたが、本年度で終了するという事です。



光市大字東荷2250-1 Tel. 0820-48-1623
開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
入館料：大人250円（200円）
（ ）内は20名以上の団体料金
* 高校生以下は無料
* 障害者手帳をお持ちの方、およびその付き添いの方は無料
URL：<https://www.city.hikari.lg.jp/kyouiku/bunka/ito-museum.htm>

第31回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

1 趣 旨

人や自然、文化とのかかわりを独自の心象でとらえた金子みすゞの心が蘇るような感性豊かな童謡詩・自由詩を募集します。

2 募集部門 (1)小学生の部 (2)中学生の部 (3)高校生・一般の部

3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のもので一人2編までとします。
- (2) 応募作品は、A4判の所定の用紙に縦書きとし、1編あたり2部コピーして提出してください。
- (3) ①募集部門 ②住所 ③電話番号 ④氏名 ⑤題名 を明記してください。

児童生徒は、学校名・学年、氏名、題名のみ記入してください。

*応募用紙の様式は、冊子「山口県教育会の学校等連携について」と山口県教育会ホームページに掲載しています。

*応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。

4 送付先 一般財団法人山口県教育会 〒753-0072 山口市大手町2-18

5 応募締切 平成30年9月12日(水)

6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞):全部門から1編
優 秀(山口県教育会長賞):各部門ごと1編
佳 作:各部門ごと数編
学校賞:全応募校から1校

7 審査結果

- (1) 平成30年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。
- (2) 最優秀・優秀受賞者は、平成30年11月17日(土)に山口市で開催される「第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

第10回「わたしの志」作文募集

1 趣 旨

将来を担う児童生徒が「わたしの志」をもって明日を拓く力を身につけ、たくましく生き抜いていこうとする作文を募集します。

2 募集部門

- (1) 小学生の部(4年生以上) 1,200字以内
- (2) 中学生の部 2,000字以内
- (3) 高校生の部 2,000字以内

3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のものに限ります。
- (2) 作文用紙の1行目に題名(内容に合ったもの)、2行目に学校名・学年、3行目に氏名を明記し、4行目から本文を書いてください。

*内容に添った題名を付けてください。

*応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。

*100作品以上応募される場合は、事前に山口県教育会の担当にご相談ください。

4 送付先 一般財団法人山口県教育会 〒753-0072 山口市大手町2-18

5 応募締切 平成30年9月12日(水)

6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞):全部門から1編
優 秀(山口県教育会長賞):各部門ごと1編
優 秀(松風会理事長賞):全部門から1編
佳 作:各部門ごと数編

7 審査結果

- (1) 平成30年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。
- (2) 最優秀・優秀受賞者は、平成30年11月17日(土)に山口市で開催される「第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

教育県民大会開催8地区と所属支部

地区名	所属する支部名
岩 国	玖北 玖西 由宇 和木 岩国
柳 井	大島 熊毛 柳井
周 南	光 下松 周南徳山 周南新南陽 周南都濃 周南熊毛
防 府	佐波 防府
山 口	吉敷 阿東 山口
厚 狭	宇部 山陽小野田 美祢
下 関	豊浦 下関
萩	大津 阿西 長門 萩

*地区内での開催支部は、その地区で協議し決定する。
*地区内での支部は開催支部を全面的に支援する。

教育県民大会開催地区ローテーション

開催年	開催地区
2020年	下関地区
2021年	岩国地区
2022年	山口地区(日連教全国大会を兼ねる)
2023年	厚狭地区
2024年	周南地区
2025年	萩地区
2026年	防府地区
2027年	柳井地区

お願いいたします。

・平成29年度事業報告(中間報告)について
・平成30年度活動方針・事業計画・収支予算について
・教育県民大会の開催地について
・支部活動の状況について(玖北・岩国・周南熊毛各支部より発表)
・平成29年度教育研究・地域活動等助成事業について
・平成30年度山口県教育会の学校等連携について
・平成30年度会員組織について ほか
これまで教育県民大会の開催地の在り方について、代表支部長による委員会での検討を行い、昨年12月の支部長会において提案し、協議してまいりました。今回の支部長・事務局長会において再度提案を行い、左表のとおり承認をいただきました。二〇二〇年以降は、本計画にそい実施してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

報告

協議・連絡

第二回支部長・事務局長会

山口県教育会館
三月二日(金)

終身会員の紹介

福田 冷子 様(周防大島) 坂本 勝久 様(宇部)
尾羽根公介 様(吉敷) 古谷 淳子 様(山口)